

中学校第 2 学年 美術科学習指導案

1 題材名 「屏風絵の世界 ～2つの作品を比較してみよう～」

2 題材設定の理由

(1) 題材観

本題材は 2 時間の「B鑑賞」の独立した教材である。日本の伝統的な美術作品の鑑賞の授業において、生徒の見方や感じ方を深める鑑賞の資質・能力を育成するために、2つの美術作品の比較鑑賞を行う。鑑賞する2つの作品は、共に安土桃山時代から江戸時代初期にかけて活躍した2人の絵師の代表的な作品である。作品A「檜図屏風（狩野永徳）」は、観るものを圧倒する巨木中心の構成と金地濃彩の豪華絢爛さで、枝のつくりあげた絵画構成を伝えており、迫りに溢れている。大枝を振りかざして舞うかのような檜の姿や、限定した色彩の凜としたコントラストは見所である。作品B「松林図屏風（長谷川等伯）」は、描かれているモチーフはほとんど松の木のみという、とてもシンプルな屏風である。それゆえに、墨の濃淡や筆のかすれたタッチ、松の木の配置など細かい点を見ていくと、それらが、遠近感や距離感を上手く生み出していることに気付くことができると考える。

中学校学習指導要領〔第2学年及び第3学年〕の〔共通事項〕では、

ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。

イ 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。

と示されている。

さらに、中学校学習指導要領第2学年及び第3学年の「B鑑賞」の内容では、

ア 造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫、目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り見方を深め、作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合うなどして、美意識を高め幅広く味わうこと。

ウ 日本の美術の概括的な変遷や作品の特質を調べたり、それらの作品を鑑賞したりして、日本の美術や文化に対する理解と愛情を深めるとともに、諸外国の美術や文化との相違と共通性に気付き、それぞれのよさや美しさなどを味わい、美術を通じた国際理解を深め、美術文化の継承と創造への関心を高めること。

と示されている。作品Aの絵師は織田信長に気に入られ、安土城の装飾を全て手掛けている。一方、作品Bの絵師は豊臣秀吉、千利休に気に入られ、瞬く間に、当時画壇のトップにいた狩野派をも脅かす存在となった。つまり、美術史的にも大きな変遷に関わったことを意味しており、この2つの作品を比べながら鑑賞することは日本の歴史の一時代の特徴を見ることにもなる。戦国時代の戦乱に生きた武将の感じ方や考え方、生き方や願いにまで思いを巡らすことができれば、見方や感じ方が更に深まっていくと考え、本題材を設定した。

(2) 生徒観

生徒 34 名を対象に「唐獅子図屏風（狩野永徳）」を鑑賞資料として提示し、実態調査を行った。日本美術に対する関心についての質問では、「とても興味がある」と回答した生徒が 2.9%（1名）「興味がある」と回答した生徒が 8.8%（3名）、「興味がない」と回答した生徒が 64.7%（22名）「まったく興味がない」と回答した生徒が 23.5%（8名）であり、88.2%（30名）の生徒は興味が

ないことが分かった。生徒の作品に対する感想を基に、作品のどの部分に注目して見ているのかについて分析すると、金箔の色に集中し、絢爛豪華な作品であると感じている生徒が多かった。また、描かれている獅子について「歩いている」「じゃれている」など、「獅子が描いてある作品」であるという認識で鑑賞していることが分かった。次に、鑑賞資料を屏風本来の折り目を付けて鑑賞させ、屏風絵の見方や感じ方について調べたところ、立体的に感じている生徒が 88.2% (30 名)、画面の躍動感を感じている生徒が 64.7% (22 名) であった。

生徒は、獅子の動きや目線、画面の立体的な見え方の変化について鑑賞することができた。実態調査後には、日本美術の屏風絵について、「もっと違う作品を見てみたい」と感想を述べる生徒がいたことなど、日本美術への関心を高めている生徒も見取ることができた。

アンケートの結果より、生徒は日本美術を知らないので関心が低く、日本美術の鑑賞を授業で取り扱うことで、生徒の興味や関心を高めることができると考える。生徒それぞれの作品に対する見方や感じ方を伝え合い、共有する機会を設定することで、作品の見方や感じ方が深まり、日本美術への関心も高まるであろうと考える。

(3) 指導観

「B鑑賞」において、〔共通事項〕の事項に示されている「形や色彩などの性質や感情にもたらす効果の理解」は、作品などのよさや美しさを主体的に味わうためには不可欠な要素といえる。本題材における鑑賞活動では、2つの美術作品を比較させることで、〔共通事項〕に示された形や色彩などの性質についての違いがより明確になり、その違いがどのような感情に結び付いているかということについて考えることが、それぞれの作品の特徴をより深く理解することにつながると思う。そこで、本題材の指導に当たって、特に次の2点に配慮して指導を進めることとする。

- ① VTS (ビジュアル・シンキング・ストラテジーズ) の考え方に基づいて、感じたことの根拠を考え、伝え合う対話活動を行わせることで、伝統的な屏風絵や障壁画の空間の表現や作品のよさについての見方や感じ方を深まることのできるようにする。
- ② 鑑賞資料を配付したり、電子黒板等を利用したりして、実際の色彩や大きさに近い状態で鑑賞させることによって、屏風絵や障壁画の立体的なイメージを持たせることができるようにする。

3 題材の目標

- 日本の伝統的な美術作品の特徴や表現方法について関心を持ち、主体的に表現の工夫、作品の特徴や美しさを感じ取り、日本の美術や伝統と文化について理解しようとする。
【美術への関心・意欲・態度】
- 日本の伝統的な屏風絵の形、色彩や用途などの特徴や印象などから全体の感じ、本質的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り、日本の美術や伝統と文化のよさなどを味わい理解する。
【鑑賞の能力】

4 題材の評価規準

美術への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
<p>① 屏風絵の形、色彩や用途などの特徴や印象、本質的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などに関心を持ち、主体的に感じ取ろうとしている。</p> <p>② 日本の伝統的な美術作品である屏風絵の特徴や表現方法について関心を持ち、主体的に日本の美術や伝統と文化などを理解しようとしている。</p>	<p>① 日本の伝統的な美術作品である屏風絵の形、色彩や用途などの特徴や印象などから全体の感じ、本質的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫を感じ取り、自分の価値意識を持って味わっている。</p> <p>② 2つの作品を比較しながら、屏風絵の特質を捉え、日本の美術や伝統と文化のよさなどを味わい理解している。</p>

5 題材の指導計画と評価規準（全2時間）

過程	学習活動	教師の指導・支援	学習活動に即した評価規準 【評価方法】
1時間目 (日本美術との出会い)	<p>1 日本の伝統的な美術作品と出会う。</p> <p>2 鑑賞資料の折り曲げを行い、平面の時との違いを体験する。</p> <p>3 「檜図屏風」の部分図から、何が描かれているかを読み取る。</p>	<p>○日本の伝統的な美術作品について、その特徴や美しさを感じ取らせるために、「唐獅子図屏風」を平面の作品として取り上げる。</p> <p>○鑑賞資料を使い、屏風絵本来の折り曲げ方を体験させ、平面の時との違いを比べることができるようにする。</p> <p>○実際の大きさを感じ取らせるために「檜図屏風」の拡大図を提示する。</p>	<p>関① 屏風絵の形、色彩や用途などの特徴や印象、本質的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などに関心を持ち、主体的に感じ取ろうとしている。 【活動の様子、発言内容】</p> <p>鑑① 日本の伝統的な美術作品である屏風絵の形、色彩や用途などの特徴や印象などから全体の感じ、本質的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫を感じ取り、自分の価値意識を持って味わっている。 【活動の様子、発言内容・ワークシート】</p> <p>※鑑①については、第1時、第2時を通して、評価する。</p>

2 時間目 (本時)	1 「檜図屏風」と「松林図屏風」を比較し、形や色彩について違いを鑑賞する。 2 グループで対話活動をし、感じたことについて根拠を発表する。 3 どのような時代に描かれた作品であるかを、全体の印象から考える。	○「檜図屏風」と「松林図屏風」を比較して、形や色彩について理解するために、電子黒板に作品を提示して確認させる。 ○対話活動では、根拠を明確にし、的確に理解し、広い視点から感じ取らせるために、自分の言葉で表現するように促す。 ○「松林図屏風」の表現の工夫についての見方や感じ方を深めさせるために、生徒が感じたことの根拠を求める発問をする。 ○日本美術の歴史的・概括的な捉え方をさせ、作品の全体の印象から考えることができるようにする。 ○日本美術の歴史的・概括的な捉え方から鑑賞の深まりを感じさせる。	鑑① (第 1 時, 第 2 時を通して評価する) 関② 日本の伝統的な美術作品である屏風絵の特徴や表現方法について関心をもち、主体的に日本の美術や伝統と文化などを理解しようとしている。 【活動の様子, 発言内容・ワークシート】 鑑② 2 つの作品を比較しながら、屏風絵の特質を捉え、日本の美術や伝統と文化のよさなどを味わい理解している。 【発言内容・ワークシート】
---------------	---	--	--

6 指導の視点

生徒の鑑賞の能力を高める手だてとして、以下の 2 つの手立てを取り入れる。

- ・作品の見方や感じ方の根拠を明らかにし、作品の存在観をより際立たせて見ることができるようするために、2 つの作品を〔共通事項〕を基に比較させ、VTS (ビジュアル・シンキング・ストラテジーズ) の考え方に基づいて、感じたことについて根拠を伝え合う対話活動を行わせる。
- ・当時の人々の生活を理解して愛着を感じ、感じ方や願い等のイメージをもって、作品の意図するものを読み取ることができるように、配付資料を折り曲げて、作品の中に描かれている線の力強さや色の美しさ等を制作された時代の様相と関連付けて鑑賞させる。

7 本時の指導

(1) 本時の目標

- 日本の伝統的な美術作品である屏風絵の特徴や表現方法について関心をもち、主体的に日本の美術や伝統と文化などを理解しようとする。 【美術への関心・意欲・態度】
- 2 つの作品を比較しながら、屏風絵の形、色彩や用途などの特徴や印象などから全体の感じ、本質的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫を感じ取り、日本の美術や伝統と文化のよさなどを味わい理解する。 【鑑賞の能力】

(2) 本時の展開 (作品A「檜図屏風」, 作品B「松林図屏風」とする)

過程	学習活動 (<input type="checkbox"/> 予想される生徒の発言)	指導上の留意点 (○)	評価 規準
導入 (作品との出会い)	<p>全体</p> <p>1 前時の屏風絵の見方を振り返り、日本美術の感想を知る。</p> <p>2 作品Bを見て、本時の内容に関連して教師とやり取りを行い、めあてを確認する。</p>	<p>○生徒が、作品の色や大きさを実感することができるように、電子黒板で提示する。</p> <p>○生徒が作品Bから感じたことを聞き出しながら、本時のめあてにつなげる。</p>	
展開 (見比べる)	<p>個</p> <p>3 作品Bを作品Aと形や色彩から気付いたことについて比較し、個人で鑑賞する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ Aは豪華, Bは地味。 ・ Aは力強い。Bはやせて細い。 ・ Aは線が太く, 力強い。 ・ Bは線が細く弱々しい。 </div> <p>4 作品Bを鑑賞し、感じたこと、考えたこと(疑問に思ったこと)をワークシートに記入する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ B 風が吹いているみたい。動いているみたい。 ・ B 涼しい場所だと思う。暗くて夕方みたい。 </div> <p>5 2つの作品を鑑賞し、自分の思ったこと、考えたことをワークシートに記入する。</p>	<p>○作品Bを作品Aと比較させ、形や色彩から気付いたことや疑問に思ったことをワークシートに書き込ませる。</p> <p>○作品に描かれている物に注目させる。</p> <p>○どのような季節や時間なのかを考えさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>発問①「この作品Bの中でどのようなことが起きていますか」</p> </div> <p>○作品Bが描かれている場面を考えさせる。</p> <p>○松林の形、色彩に関すること、余白の部分等に注目させる。</p> <p>○2つの作品を比較させ、より際立って見えるよさに注目させる。</p>	<p>鑑①</p> <p>(前時から引き続き評価)</p>
展開 (根拠を考える)	<p>6 自分が感じたことの根拠を絵の中から考え、ワークシートに記入する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 力強い檜, 金箔から, 豪華だと感じた。 ・ やせて細い松や墨の色から, 地味だと感じた。 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>発問② 「なぜ、そう考えましたか」</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 描かれている物の形 ・ 描かれている物の色彩 ・ 霧や空間から考える。 <p>(根拠を考えながら作品を見直させる)</p>	<p>関②</p>

<p>展開 (根拠を考える)</p>	<p>7 なぜ、そう見えるのか、なぜそう感じるのか、考える。</p>	<p>○感じたことの根拠を、作品である屏風絵の形や色彩などの性質などから考えさせる。 ○松林の動き、空間など着目点を徐々に絞って発言させる。(この絵は何を言いたいのだろうか) ○自分の見方や感じ方を捉え直してから、次の展開へ移るようにする。</p>	
<p>展開 (意見を交わす)</p>	<p>G 8 グループで話し合う。 (対話活動) リーダーが中心になって、作品Bについて、それぞれの意見を交換する。</p> <p>全体 9 グループの意見をリーダーが発表する。 10 グループでの話し合いから、新しい考えが生まれたのか振り返る。 初めはあまり興味がなかったが、友達の「霧のかかった山林の風景」という意見を聞いて、自分も朝霧の風景のように見えてきました。</p>	<p>○4人グループをつくり、リーダーを決めるように指示する。 ○この絵の使われ方について考えさせるために、グループで、以下のことを話し合わせる。 ① どのような事が起きていると思いましたか。 ② 第一印象はどのように感じましたか。 ③ どこからそう感じましたか(根拠)。 ④ 自分の感じ方と違う人の意見の根拠を聞いて、どのように感じましたか</p> <p>発問③ 「新しい発見はありませんか」</p> <p>○グループの意見をリーダーに発表させる。 ○見方や感じ方を深めさせるために、同じ箇所を見て、違った感じ方をしているグループがあった場合は、全体の話し合いの中で取り上げる。 ○当時の人に立場を置き換えて、感じることはないか、問い掛ける。</p> <p>発問④ 「題名を付けてみてください」</p>	<p>関②</p>
<p>まとめ (振り返る)</p>	<p>個 5 本時の振り返りをワークシートに記入する。</p>	<p>○2つの作品を比較しながら捉えた屏風絵の特質を踏まえて、当時の人々にとって、屏風絵がどのような存在(価値)をもっていたのかを考えさせる。 ○前時までのワークシートと比べながら、自分自身の感じ方がどのように変わったのかを振り返らせる。</p>	<p>鑑②</p>

8 本時の評価

評価規準	日本の伝統的な美術作品である屏風絵の特徴や表現方法について関心を持ち、主体的に日本の美術や伝統と文化などを理解しようとしている。 【美術への関心・意欲・態度】		
判断する目安 (判定基準)	十分満足できる状況 (A)	おおむね満足できる状況 (B)	努力を要する状況 (C)
	屏風絵の特徴や表現方法について考え、感じたことを複数記述している。	屏風絵の特徴や表現方法について、感じたことを1つ記述している。	(B) に達していない記述
→ (B) , (C) と判断した生徒への支援		→他の視点からも考えるように声掛けをする。	→屏風として折り目を付けた場合で、見る角度の違いと結びつけて記入をするように促す。
評価方法	ワークシートの記述		

評価規準	二つの作品を比較しながら、屏風絵の形、色彩や用途などの特徴や印象などから全体の感じ、本質的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫を感じ取り、日本の美術や伝統と文化のよさなどを味わい理解している。 【鑑賞の能力】		
判断する目安 (判定基準)	十分満足できる状況 (A)	おおむね満足できる状況 (B)	努力を要する状況 (C)
	屏風絵の特徴や印象について考え、それぞれの作品のよさを感じとり複数記述している。	屏風絵の特徴や印象について、感じたことを1つ記述している。	(B) に達していない記述
→ (B) , (C) と判断した生徒への支援		→他の視点からも考えるように声掛けをする。(全体のイメージや作風から捉えることができることを促す)	→雨天や早朝など天候や時間帯と結びつけて記入をするように促す。
評価方法	ワークシートの記述		

美術科ワークシート

あなたの見方や感じ方が，どのように変わっていくのかを記録してください。

2年 組 号氏名

- **作品との出会い** 作品はどのように見えますか。

A の作品を見てどのように感じましたか。

B の作品を見てどのように感じましたか。（描いてあるものの形，色彩，空間について）

- グループや全体での話し合い活動では，どのような意見が出ましたか。

- 作品に題名（タイトル）を付けて下さい。

- 屏風絵は，当時の人にとって，どのような存在（価値）があったと思いますか。